



Q129. 適切な量と質の支援って？



A. 過剰ではない支援のことをいうよ。

「こうしたほうがいいはず」という支援する人の考えの押し付けで、子どもの思いとは違ったものになっていないだろうか？

「あれも、これもしてあげよう」と考えて続けた支援の量が多すぎて、自分一人では何もできない子どもを作り出してしまっていないだろうか？

もしも思い当たることがあれば、それは過剰な支援なのだろうね。

ある人に「これをやってみたい！」という気持ちがあるよ。

でもいろいろな理由があって、やりたい気持ちを持っていてもなかなか実現しない。

そこで、その「やりたい気持ち」をサポートしようとして、初めて「支援」となるんだ。

WBCの大谷翔平も将棋の藤井聡太も、独りっきりだと素晴らしさは見えてこないよ。

だからといって、大谷翔平 vs. 藤井聡太 も、同じ高みには居るだろうけれど、勝負としては成立しないね。

同じときに同じ場所に居る同等の力量を持った相手、が居ないと成立できないんだ。

なので支援やサポートは支援者一人だけでは出来なくて、必ず相手があるものなんだよ。

支援される人、の存在がまず先に来て、支援する人、は後から出てくるんだ。

完全に対等な、ひと対ひと、の関わりなんだね。

この順番を逆に考えてしまうと、そこに「依存」という好ましくない状態や「虐待」というしてはいけないことにつながっていく危険があるよ。

支援する人の「してあげている」という気持ちが、支援される人の「やりたい気持ち」を覆いつくしてしまうんだ。

自分で自分に、常に問いかけていなくちゃいけないことだね。

[児童福祉](#)の分野で支援をしていると、保護者さんの存在は無視できないよね。

それでも、[子どもの気持ちを聞いて](#)支援に反映していくことはとても大切なことなんだ。

[個別支援計画](#)や[サービス等利用計画](#)を書くときの人称が「支援される人＝子ども」になるのは当然のことなんだよ。

すると「こうしたほうがいい」と思って支援しているっていうのは違うことになるよね。

本当にその人の思いがそこにあるのか、ということが問われることになる。

良かれと思って支援していても、見当違いの方向を向いているのと同じだね。

「あれも、これもしてあげたい」という考えも、違うということになるよ。
本当にそれをしてもらいたいと思っているのか、を問わなくちゃいけない。
勝手にあれこれやっていると、おせっかい、という言葉で表現されてしまうね。

そのために必要な考え方が[PDCAサイクル](#)と呼ばれるものだね。
そしてこのサイクルを回していくには[モニタリング](#)が必要になってくる。
しっかりとその人の話を聞いて、どう変わったかをモニタリングして必要ならば計画を修正する、
を繰り返していくんだよ。

ここで、支援される人、がやってもらうことや押し付けられたことに慣れきってしまうと「依存」を生み出してしまうんだ。

他者に過剰に助けてもらっていると、自分一人では何もできなくなってしまっ自立することができなくなる。

支援というものは、なんでもかんでもやってあげる、ということとは違うんだよ。

依存にならない「適切な量と質の支援」でモニタリングを繰り返して、自分でできるようになると、もう支援は必要なくなる。

そういう意味で支援には終わるときが来るよ。

「適切な量と質の支援」は、いいタイミングで終結されるものなんだ。

どんな良質な支援でも、ダラダラと続けるのは良い結果に結びつかない。

支援する人は「無条件に感謝されて頼られながら承認される存在」という気持ちよさを捨てる勇気が必要なんだ。

適切なタイミングで支援をやめることも、大切な支援なんだよ。

支援の最終目標は「自立・自律」にあるよ。

支援される人も、支援する人も、お互いの[尊厳](#)を認め合うことが大切だね。

そして「じりつ」できたなら、一人で歩きたいね。

《MENU》

《[児童支援利用計画と個別支援計画との違いは？](#)

[チャイルド・ファーストの理念って？](#)》

放課後等デイサービス支援事業
Support Project of
Day-service for After-school
At Kyoto

2023-03-27 掲載